Aomori Smart City Vision

デジタルで変わる、青森市のこれから。

青森市スマートシティ ビジョン

令和7年（2025年）3月

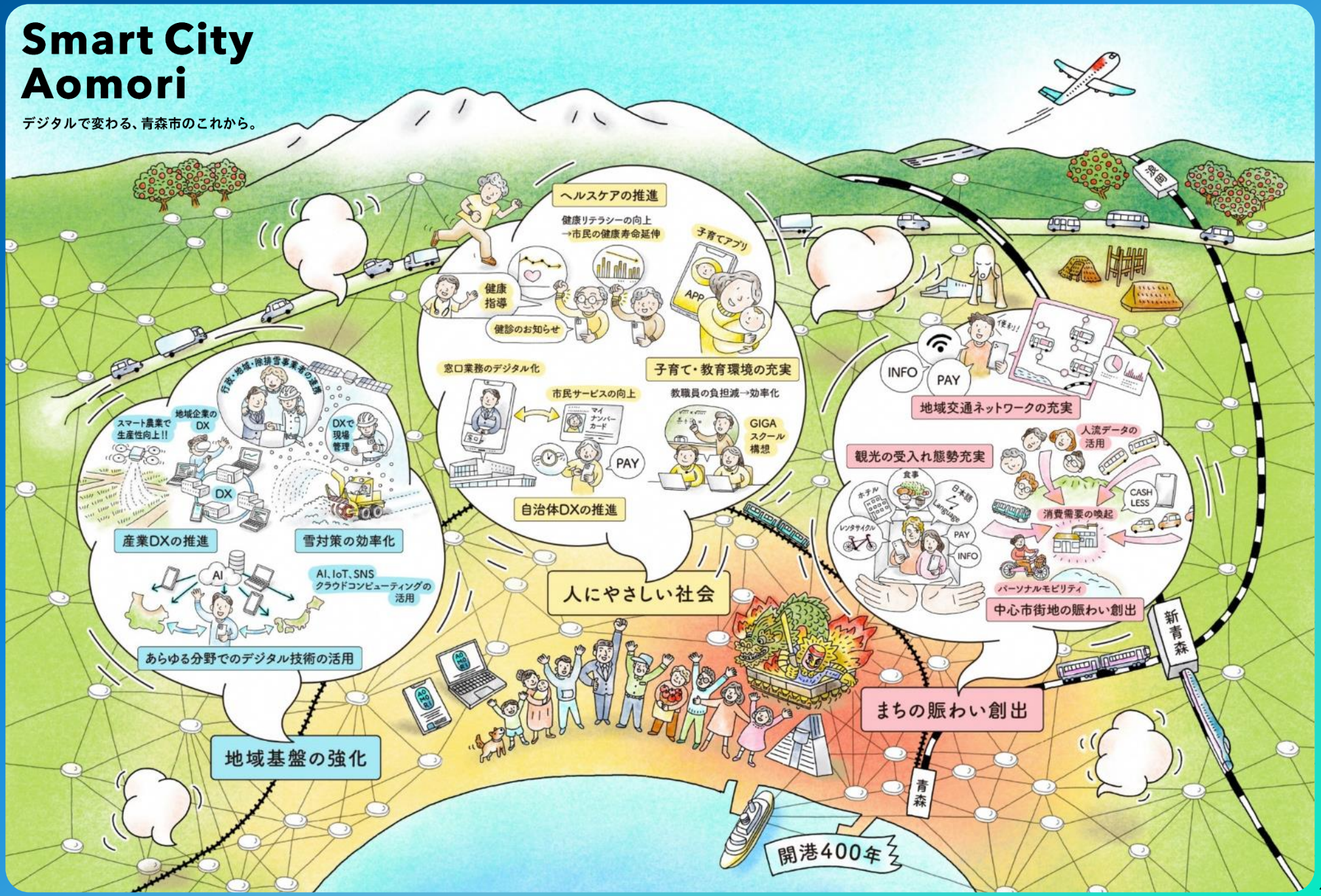
青森市

この街のデジタルは、温かい。

デジタルは、冷たいものではありません。
距離を超え、人と人の心を近づける。
市民、企業、行政を一つにする。
この街への愛をぐっと深める。
そんな温もりにあふれた技術です。
ねぶたの灯りに、温泉の湯けむり、
そして新しいデジタルの温もりで。
体温の上がる青森市の未来を、
一緒につくっていきませんか。

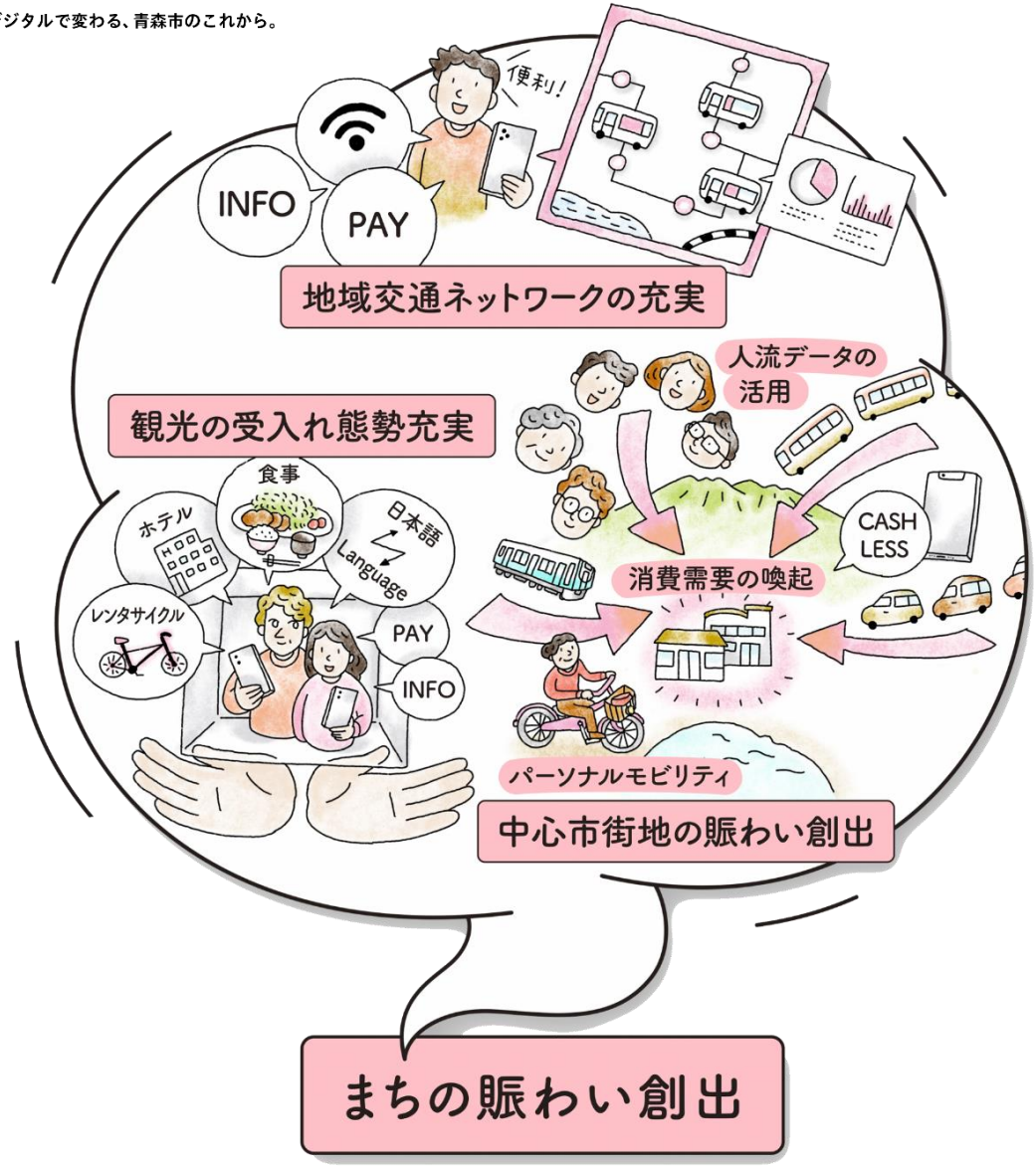
Smart City Aomori

デジタルで変わる、青森市のこれから。



Smart City
Aomori

デジタルで変わる、青森市のこれから。



まちの賑わい創出

重点分野 地域交通ネットワークの充実

乗りたい時にバスが来る。支払いもキャッシュレスで楽々。そんな誰もが使いやすくて持続可能な公共交通ネットワークを、データやAIなどの活用によって築いていきます。

重点分野 中心市街地の賑わい創出

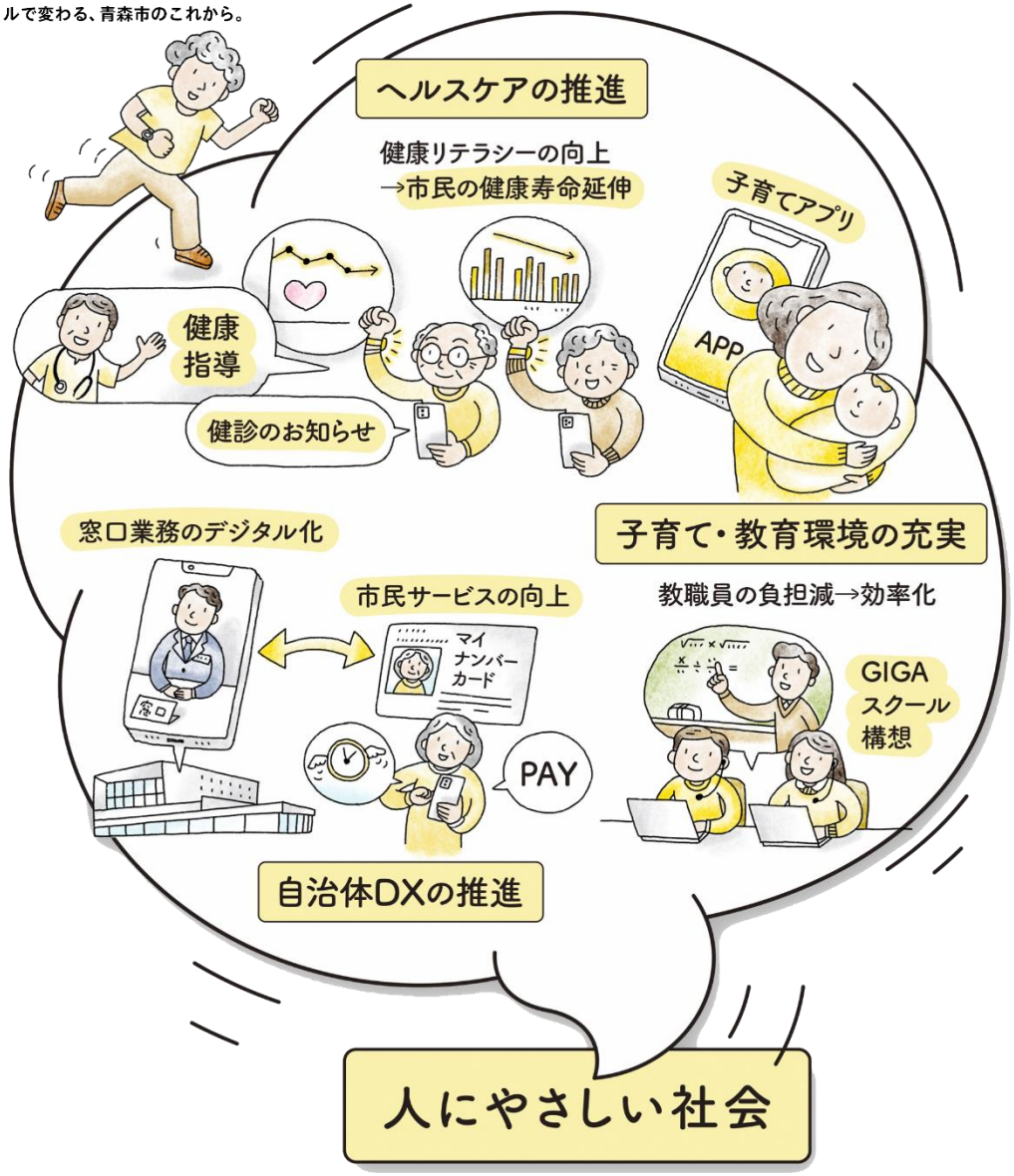
青森市を訪れた人がこの街をもっと楽しめるように。人流データの活用、アプリ予約やキャッシュレス決済に対応したパーソナルモビリティの導入などで、まちの賑わいをつくっていきます。

重点分野 観光の受入れ態勢充実

青森市の持つ魅力をデジタルマーケティングで正しく把握し、効果的に観光情報を発信。多言語対応、キャッシュレス決済、通信環境の充実などで、観光客の受入れ態勢を充実させます。

Smart City
Aomori

デジタルで変わる、青森市のこれから。



人にやさしい社会

重点分野

ヘルスケアの推進

市民の健康データを分析し、健康課題を見える化。一人ひとりに合った健康指導や予防サービスによって健康リテラシーをアップし、健康寿命を延ばします。もう青森市のことを短命市とは言わせません。

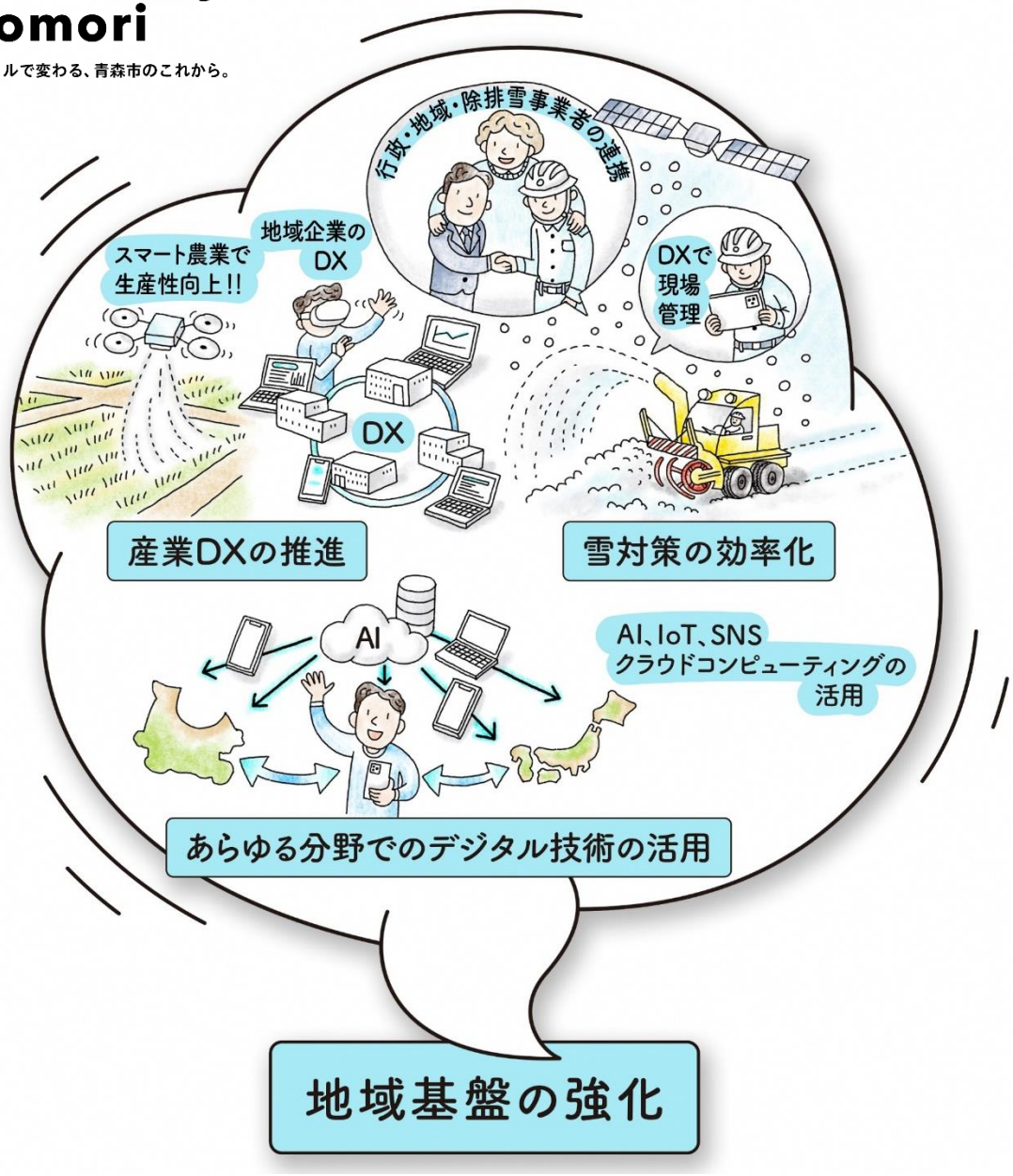
● 子育て・教育環境の充実

教育現場のデジタル化や、放課後児童会・図書館などの利便性向上によって、質の高い教育環境を整備。一人ひとりのニーズに応えながら、子どもたちがのびのびと成長できる地域をつくっていきます。

● 自治体DXの推進

窓口業務のデジタル化を進め、誰もが簡単で直感的に利用できる環境を整備。さらにAI・RPAによる業務効率化で、行政運営を迅速かつ効率的に。デジタルの力で快適な市民サービスを実現します。

Smart City
Aomori
デジタルで変わる、青森市のこれから。



地域基盤の強化

● 産業DXの推進

地域企業のDX支援により、人手不足の解消や新たなビジネスモデルの創出を実現。ロボット技術やICTを活用したスマート農業の普及によって、生産性もアップ。地域産業の可能性を広げていきます。

重点分野

雪対策の効率化

雪関連情報を地域・事業者と共有し、きめ細やかな除排雪を実現。さらにICTなどのデジタル技術によって作業を効率化し、より安心で快適な冬の暮らしを支えます。

● あらゆる分野でのデジタル技術の活用

AI、IoT、クラウドコンピューティング、SNSといったデジタル技術をあらゆる分野で活用。デジタルの力によって、便利で快適な暮らしを作り上げていきます。

目次

01 趣旨等

趣旨 / 背景 / 位置づけ

検討方法

02 本市の現状

内部環境（まち・ひと・しごと）

外部環境（PEST分析）

03 基本理念

スマートシティの理念 / 原則

青森市らしさの追求

04 将来像

まちの賑わい創出

人にやさしい社会

地域基盤の強化

05 実現に向けて

実行性の確保のために

推進体制

ロードマップ

01　趣旨等 – 趣旨 / 背景 / 位置づけ

趣旨 / 背景

・人口減少により地域経済の規模縮小など様々な課題が懸念されている中で、デジタル技術の進展は、地域課題の解決のための新たな可能性を生み出しています。
・「青森市スマートシティビジョン」は、本市のデジタル技術を活用したまちづくり（以下「スマートシティ」）に関する将来像等を、市民、企業・団体、大学などのステークホルダーと共有することで、「スマートシティ青森モデル」を構築し、市民力＋民間力による「DX先進都市 青森市」の実現を目指していくため、策定するものです。

位置づけ

・「青森市スマートシティビジョン」は、青森市総合計画基本構想の基本視点である「ICTを活用し、あらゆる人に開かれたスマートオープンシティ」の方向性を示すものであるとともに、「DX先進都市 青森市」の実現に向けた、本市のスマートシティの推進に関する分野横断の指針として位置づけられるものです。

国の動向

- デジタル社会形成基本法
- 科学技術・イノベーション基本計画
- デジタル田園都市国家構想総合戦略
- 府省庁スマートシティ関連政策

・・・

青森市総合計画基本構想

前期基本計画（2024－2028）　**後期基本計画（2029－2033）**

経済・産業
観光・交流
子育て・教育
文化・スポーツ
健康・福祉・医療
平和・多様性
防災・安全
まちづくり
地域交通
インフラ・雪対策
生活・環境
行財政運営

青森市スマートシティビジョン
青森市総合計画基本構想の目標年次を基本としつつ、必要に応じて適宜見直し

01　趣旨等 －検討方法

内部環境	まち	ひと	しごと
外部環境	P：政治的要因	E：経済的要因	S：社会的要因	T：技術的要因

あおもり未来ミーティング
市民ワークショップ

地域幸福度アンケート
（独自設問）

地域幸福度(Well-Being)指標

市民ニーズ

青森市らしさの追求	将来像	地域性や市民ニーズを考慮し、青森市らしさや将来像（重点分野等）を設定しました。

※次頁以降の内部環境は、本市の様々な現状から将来像として設定した分野に関係するものを中心に記載しています。

02　本市の現状 – 内部環境（まち）

都市

- 青森県のほぼ中央に位置する県庁所在地の中核市
- 青森県の交通・行政・経済・文化の中心都市として商業、公共サービス、観光施設、交通ターミナルなど中心市街地に高度な都市機能が集積
- 青森市、青森県、青森商工会議所、東日本旅客鉄道株式会社の4者で「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」を締結
- 都道府県庁所在地としては全国で唯一、市全域が特別豪雪地帯に指定され、市民の関心が特に高い雪対策

観光

- 国内外の観光客が訪れやすい交通結節点機能
- 雄大な自然、豊かな温泉資源、祭りや文化遺産などの魅力のある観光資源
- クルーズ船寄港数が東北で最も多く、増加傾向
- インバウンドをはじめとした観光需要は回復傾向
- 夏季と比較して落ち込みが見られる冬季の観光需要

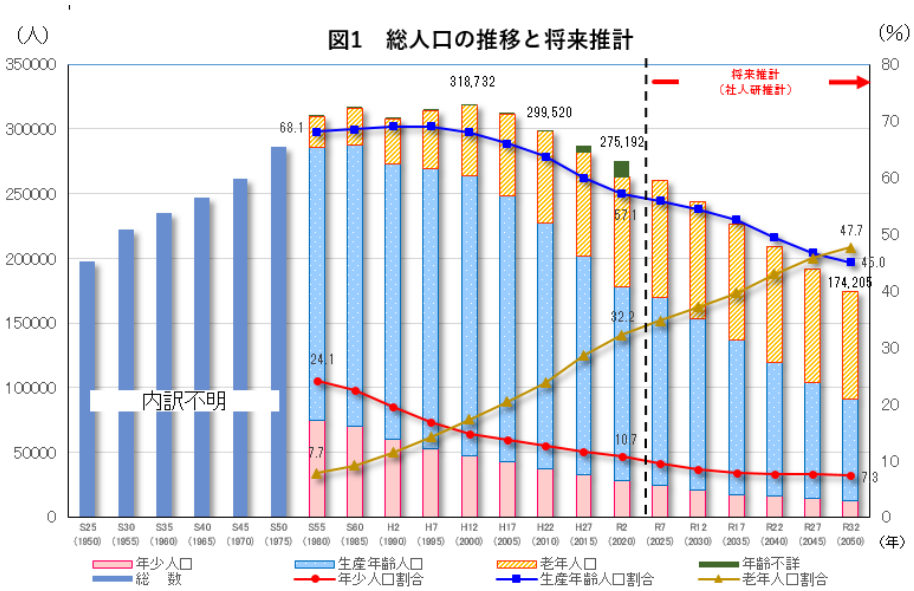
交通

- 高速道路、新幹線、空港、港を有する交通の要衝で、陸・海・空の交通結節点
- 都市の複数拠点を公共交通で有機的に連携するコンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりを推進
- 市内の公共交 通は、鉄道・路線バスで広くカバーされているが、路線バスの利用者は減少傾向

02　本市の現状 －内部環境（ひと）

人口推移

- 総人口は、2000年の31万9千人をピークに減少傾向
- 2000年には、年少人口割合と老年人口割合が逆転し、少子高齢化が年々進行
- 生産年齢人口は、2050年には45.0％まで低下する見込み

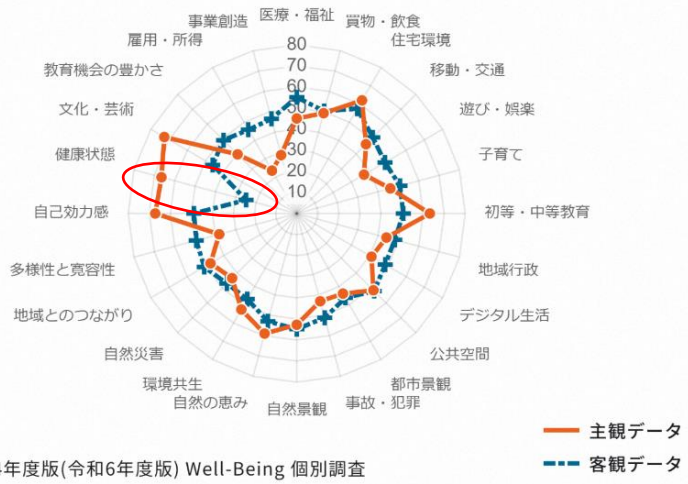


出典：令和2年以前は総務省「国勢調査」、
令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所（令和5年12月推計）

自然動態・要因

- 自然動態は、2003年に死亡数が出生数を上回る「自然減」に転じており、減少幅が拡大しながら推移
- 合計特殊出生率は、2018年以降は低下傾向
- 「子育て先進都市 青森市」の実現を目指し、「未来を担う人財の育成」を推進
- 平均寿命及び健康寿命は上昇傾向であるものの、全国平均よりも低い水準
- 地域幸福度（Well-Being）指標において、健康状態の主観指標と客観指標の乖離が顕著

カテゴリー別



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

02　本市の現状 － 内部環境（しごと）

地域産業

- 市内総生産額の約9割が第3次産業で
  卸売・小売業の割合が最も高いが、事業所数、市内総生産額ともに
  減少傾向で労働生産性に課題
- 市内総生産額のうち情報通信業が増加傾向
- 青森港が洋上風力の基地港湾に指定され、関連産業の集積と
  市内事業者の参入に向けた期待

一次産業

- 農業就業人口の減少及び高齢化による
  農業経営の弱体化と遊休農地の増加
- 野生鳥獣による農作物被害が増加傾向
- 林業従事者の減少や経営コストの上昇
- 気候変動・海水温の上昇に伴うホタテガイ養殖への悪影響

02　本市の現状 －外部環境（PEST分析）

Politics：政治的要因

■政府による地方創生とデジタル政策の推進
- デジタル田園都市国家構想
- スマートシティ・スーパーシティの推進
- データ連携の推進
- 特区制度による規制緩和
- 積極的なスタートアップ育成

■青森県によるDX政策の推進

Economy：経済的要因

■ スマートシティ市場の急速な成長
- デジタル技術の普及による産業構造の変化
- ビジネスモデルの変化と新たなサービスの提供
- 官民連携の浸透
- スタートアップの増加

■ 日本を取り巻く環境
- 円安・物価高の進行 /インバウンドの増加

Social：社会的要因

■人口動態の急速な変化
- 都道府県庁所在地の中でも特に高い人口減少率や急速な少子高齢化等による担い手不足

■ 市民の価値観の変化
- 市民ニーズの多様化
- リモートワークなどの働き方の多様化
- 持続可能な社会への関心の高まり

Technology：技術的要因

■ 急速なデジタル技術の進展
- アフターコロナによるデジタルサービスの普及
- 日常生活へのAI・IoTなどの普及
- 地域型のサービス創出や市民参画の促進

■ 人と人との接点の在り方の変容
- デジタル空間での交流の活発化
（インターネットメディア、オンライン会議、メタバース等）

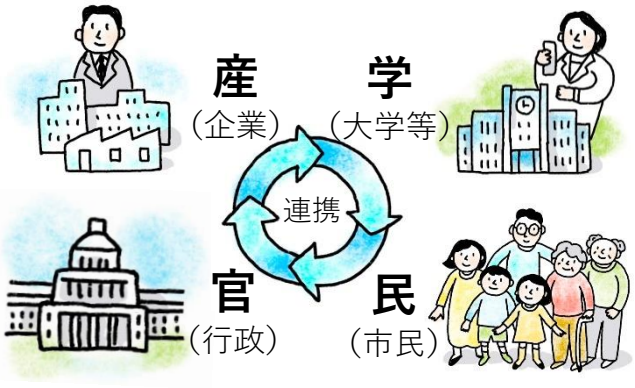
コンセプト

この街のデジタルは、温かい。

～温もりのあるまちづくりを、デジタルの力で。～

青森市が考える「デジタル」は、冷たいものではありません。
様々な人と人の心を近づける。この街への愛をぐっと深める。そんな温もりのあるものなのです。
下記の理念は、青森市の地域性や市民ニーズを参考に設定しました。
青森市らしい温かい未来に向けて、一緒にスマートシティを創っていきませんか。

公民連携



行政だけでなく、市民、企業・団体、大学など多様な主体が連携・協働して課題の解決策を見出します。

郷土愛

市民一人ひとりがまちづくりに関わることを通じて郷土への愛着と誇りを育みます。

つながり

新しい交流やコミュニティの形成など、市民がつながるきっかけを作ります。

03　基本理念 – スマートシティの理念 ／原則

市民中心主義

スマートシティの最大の目的は市民のWell-Beingの向上であることを認識し、若者から高齢者まであらゆる世代が主役となる市民起点のまちづくりを推進します。

ビジョン・課題フォーカス

デジタル技術はあくまで手段であり、地域課題の解決とビジョンを実現するために賢く（スマートに）活用します。

アジャイル型アプローチ

完璧を求めず、失敗から学ぶ姿勢で、スモールスタートとトライ＆エラーを繰り返しながら、柔軟で変化に強いアプローチを重視します。

公平性
包摂性

年齢、性別、経済状況、地域等にかかわらず、すべての市民が恩恵を受け、多様なニーズに応えます。

オープン性
相互作用性

情報が互いに連携しやすい環境を整え、オープンで相互運用可能な環境を構築します。

プライバシー
透明性

個人情報保護を徹底するとともに、データの利用目的や運用方法を明確にする。市民にとってわかりやすい情報公開を推進します。

持続可能性

機動的かつ機能的な運営体制の構築及び経済的なビジネスプランを検します。

安全性
強靭性

災害やサイバー攻撃などのリスクに対して、機能維持や迅速な復旧が可能な体制構築に努めます。

04　将来像 – まちの賑わい創出

重点分野　地域交通

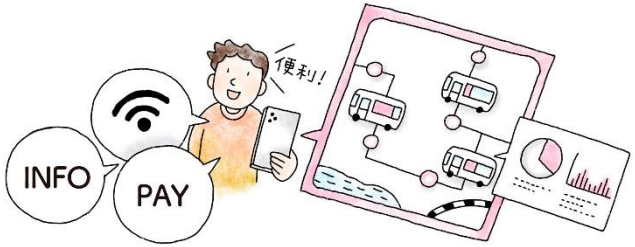
将来像

都市づくりと連携しながら、公共交通機関の相互連携や利便性の向上により、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの形成がされている。

取組例

- 公共交通機関の利用状況や人流データ等の分析によるバス路線の最適化や潜在需要の発掘
- キャッシュレス決済、GTFS-JPの活用、AI を活用した新たな公共交通体系の検討などデジタル技術を活用し、若者にも高齢者にも利用しやすい公共交通サービスを提供

など



重点分野　中心市街地

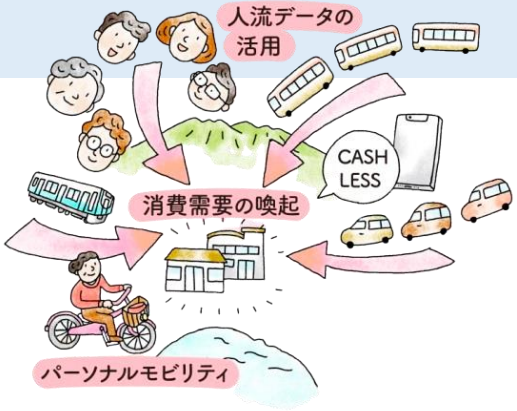
将来像

国内外からの観光客など交流人口の増加を通じた、更なる消費需要の獲得に向け、魅力的な拠点が形成されている。

取組例

- 人流データ等の利活用による効果的な中心市街地の賑わい創出施策の検討
- デジタル技術を活用した予約、キャッシュレス決済等に対応するパーソナルモビリティ（レンタサイクル等）の導入による回遊性の向上

など



重点分野　観光

将来像

地域特性を活かした通年での魅力づくりが行われ、効果的な情報発信がされるとともに、観光客の受け入れ態勢が充実している。

取組例

- デジタルマーケティングによるニーズ・ターゲットに応じた誘客戦略の推進
- 観光施設等での多言語対応やキャッシュレス決済、通信環境の充実や、緊急時等の情報連絡体制の整備など、観光客視点での利便性の向上

など

04　将来像 – 人にやさしい社会

重点分野

ヘルスケア

将来像

生活習慣病予防や各種健診・検診の受診など若者から高齢者までヘルスリテラシーが向上し、市民の健康寿命が延伸している。

取組例

- 市民の健康データ等の分析から健康課題を見える化し、体系的な予防戦略を推進
- ヘルステックを活用した予防サービスなどによる健康づくりの推進

など

子育て・教育

将来像

多様なニーズに応じたきめ細かな子育て環境が提供されているとともに、未来を担う人材を育成するための環境が充実している。

取組例

- 放課後児童会や図書館サービスなどにおける利用者の利便性の向上
- 国のGIGAスクール構想によるICT環境の充実
- 教職員の働き方改革や校務データ等の利活用による学習指導・学校経営の効率化などによる校務DX の推進

など

自治体DX

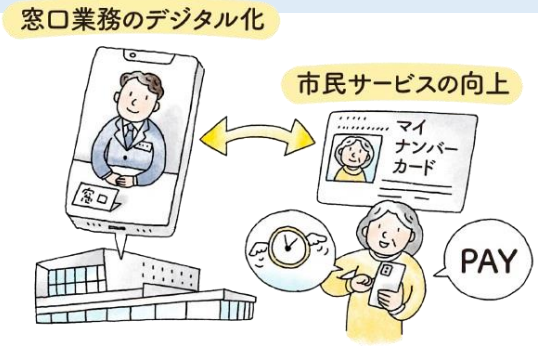
将来像

窓口業務のデジタル化やデジタルを活用した業務改革などにより、市民サービスの向上や庁内の業務改善がなされ、迅速で効率的な行政運営が実現している。

取組例

- マイナンバー制度の有効活用、書かない窓口の導入や行政手続のオンライン化やキャッシュレス決済の推進などによる市民が直感的で簡単・最適なサービスを利用できる環境の整備
- AI・RPA等のデジタル技術の活用による業務の効率化や執務環境の改善

など



04　将来像ー地域基盤の強化

産業DX

将来像

地域企業のDXやスマート農業の導入などにより、地域産業の生産性が向上するとともに、新たなビジネスモデルが創出されている。

取組例

- 地域企業のDX 意識の醸成やコンサルティング等による新たなビジネスモデルの創出や人手不足の解消、労働生産性の向上
- ロボット技術やICT等を活用したスマート農業技術の導入などによる生産性の向上や作業の効率化

など

雪対策

重点分野

将来像

地域・除排雪事業者・行政が連携し、きめ細かで効果的・効率的な除排雪が実施されている。

取組例

- 地域や除排雪事業者と連携し、雪関連情報の更なる共有化と市内各地域の実情や高齢者などの居住者特性に合わせた除排雪作業の実施
- ICT等のデジタル技術の活用などによる持続可能な除排雪体制の構築や除排雪業務の効率化

など

その他

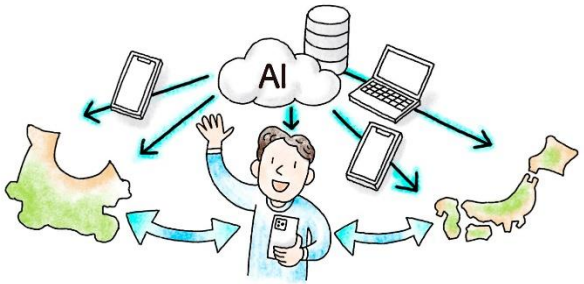
将来像

あらゆる分野でデジタル技術が活用された取組が促進され、市民の利便性が向上している。

取組例

- AI、IoT、クラウドコンピューティング、SNSなど活用した災害対応業務の効率化

など



05　実現に向けて – 実行性の確保のために

人材育成

将来像

- スマートシティエコシステムを形成するための人材が供給され、持続的に育成されている。

取組方針

- 民間企業・大学との交流や様々なことにチャレンジする機会の創出
- 外部人材を活用しながら、デジタル技術等に関するスキルの習得

資金的持続性

将来像

- 費用抑制と適切な費用負担がなされ、持続可能なモデルが形成されている。

取組方針

- 小規模に社会実装を始めるスモールスタートを基本とした初期段階の費用抑制
- 複数自治体の共同利用や受益者との費用分担などによる持続可能なモデルの検討

スマートシティ実現のための実行性の確保

システム基盤

将来像

- 分野間・地域間のデータ連携により、新たなサービスの創出や既存サービスの深化が行われている。

取組方針

- 地域課題や取組・サービスを整理するとともに、長期運用を前提とした拡張容易性などのシステム要件を明確にし、データ連携のためのシステム導入の可否を検討

データ利活用

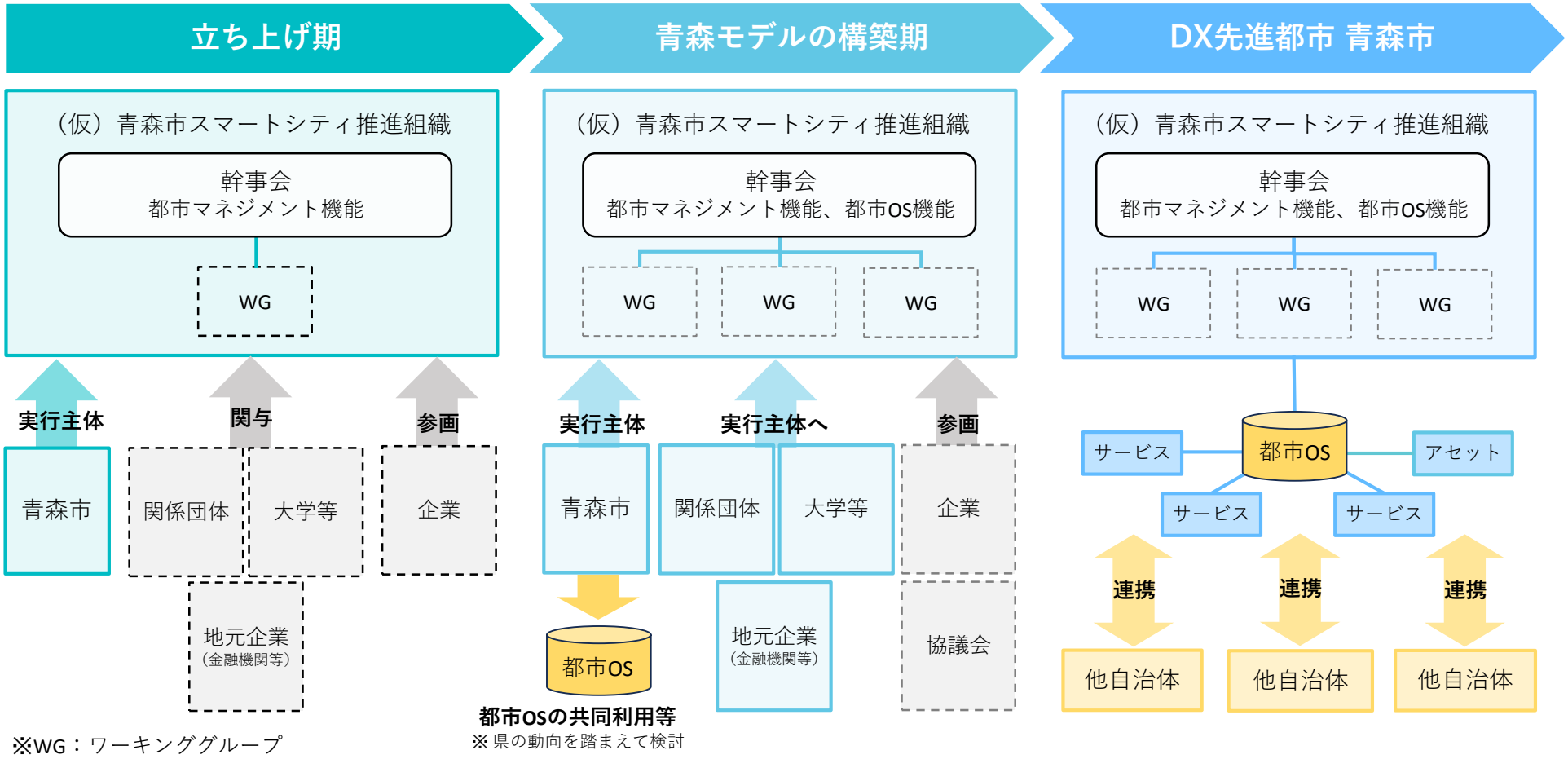
将来像

- データが蓄積され、データに基づく 政策決定（EBPM）が推進されている。

取組方針

- 様々な施策におけるデータ利活用の取組の強化
- 分野横断的に様々なデータを取得し、データ利活用のための知識・ノウハウを底上げ

05　実現に向けて – 推進体制



※WG：ワーキンググループ

スマートシティ運営組織に必要な機能群

都市マネジメント機能			都市OS機能	
全体統括・方針策定	組織運営・管理	ルール策定・管理	都市OS・管理	セキュリティ
ビジネス開発・運営	マーケティング・周知広報		アセット及びデータ管理・運用	

05　実現に向けて－ロードマップ

			現状（2024年）	青森モデルの構築期	DX先進都市 青森市
			スマートシティビジョン策定、推進体制構築に向けて始動	**スマートシティ推進のための土台が整備され、複数サービスが展開**	**エコシステムが形成され、他自治体と連携が促進**
施策の方向性	スマートシティサービス		スマートシティを前提としたサービスが少ない。	重点分野を中心にサービスが増えはじめ、「アジャイル型」でサービスが創発・廃止され、市民に効果的なサービスが生まれている。	サービスの質・量ともに充実化されており、サービス間連携による分野横断的な価値創出が行われている。
	実行性の向上	人材育成	外部支援を受けながら、スマートシティ推進に必要な人材を育成している。	スマートシティ推進に必要とされる人材が充足している。	スマートシティエコシステムを形成するための人材が供給され、持続的に育成されている。
		資金的持続性	公費負担を前提としたデジタルサービスが多い。	対価性のあるサービスに関する費用負担や、サービス内での収益源の確保がなされ始めている。	費用抑制と適切な費用分担がなされ、持続可能なモデルが形成されている。
		システム基盤	データとサービスが１対１でのみ利用されるサイロ型システムになっている。	都市OSの共同利用等により、分野間・地域間連携のための土台が作られている。	分野間・地域間のデータ連携により、新たなサービスの創出や既存サービスの深化が行われている。
		データ利活用	システム毎にデータを保有しており、局所的なデータ利活用にとどまっている。	データが蓄積され、データ利活用のユースケースが徐々に増えている。	データが蓄積され、データに基づく政策決定（EBPM）が推進されている。
	推進体制		スマートシティの庁内の推進体制・公民連携の推進組織が整備されていない。	庁内の推進体制が構築され、青森市を実施主体に含む公民連携の推進組織が形成されている。	青森モデルが深化し、「DX先進都市青森市」として他自治体と連携が促進されている。

用語解説（アルファベット・50音順）

AI	Artificial Intelligence（人工知能）の略。人間の知的な行動を模倣、実行、または超越するように設計されたコンピューターシステムまたは機械。
DX	Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略。デジタル技術を社会に浸透させて生活をより良いものへと変革すること。
EBPM	Evidence Based Policy Making（証拠に基づく政策立案）の略。局所的な事例の重視や過去の慣例を排除し、科学的・合理的な手法で得られた情報により政策を決定すること。
GTFS-JP	General Transit Feed Specification Japan（標準的なバス情報フォーマット）の略。バス事業者と経路検索等の情報利用者の情報の受渡しのため、公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式。
ICT	Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。パソコンやスマートフォンなどを活用したコミュニケーションを行うための技術。
IoT	Internet of Things（モノのインターネット）の略。家具、家電等の「モノ」のセンサーと通信機能を搭載することで、利用状況や感知した情報を、インターネットを通じ伝達するテクノロジーのこと。
RPA	Robotic Process Automation（ロボットによる業務自動化）の略。人間がコンピュータ操作にて行う作業を、ソフトウェアによる自動的な操作により代替するもののこと。
SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。登録した利用者だけが参加できるインターネットを利用したサービス。
Well-Being（ウェルビーイング）	よい（Well）と状態（Being）からなる言葉で、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること。
アジャイル	柔軟で効率的なシステム開発によって、迅速なシステム提供を目ざすというソフトウェア開発手法の総称。アジャイルは英語で、「素早い・機敏な・（頭の回転が）速い」などの意味を持つ。
インターネットメディア	ニュースサイト、ポータルサイト、コーポレートサイト、SNSなど、インターネットを介して情報発信や情報交換をしているサイト全般のこと
インバウンド	外国人が国内に訪れる旅行のこと。

用語解説（アルファベット・50音順）

エコシステム	ビジネスの「生態系」であり、企業や顧客をはじめとする多数の要素が集結し、分業と協業による共存共栄の関係のこと。
クラウド コンピューティング	データやアプリケーション等のコンピューター資源をネットワーク経由で利用する仕組みのこと。
サイロ型システム	他のアプリやサービスと連携しない孤立したシステムのこと。 サイロ型システムが個別に構築された場合、データやアプリケーションの互換性確保等に支障が生じる。
スタートアップ	一般に、新しい企業であって、 新しい技術やビジネスモデル（イノベーション）を有し、急成長を目指す企業のこと。
スマートシティ	地域課題の解決や新たな価値の創出を目指して、ICT等の新技術やデータを有効に活用し、各分野におけるマネジメントが行われ、人々により良いサービスや生活の質を提供する都市。
スモールスタート	新たな事業を立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開し、需要の増大などに応じて順次規模を拡大させていくこと。
地域幸福度 （Well-Being）指標	一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが作成・開発した、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化した指標。
デジタルマーケティング	インターネットやIT技術などのデジタルを活用したマーケティング手法のこと。
都市OS (データ連携基盤等)	スマートシティに共通的に活用する機能が集約され、様々な分野のサービスの導入を容易にさせることを実現するITシステムの総称（データ連携基盤など）のこと。
トライ&エラー	問題解決の場面で、様々な方法を試し、失敗を重ねながら解決を目指す手法。試行錯誤を繰り返すこと。
ヘルステック	健康（Health）と テクノロジー（Technology）を合わせた造語で、AI や IoT等の様々なデジタル技術を組み合わせて、医療や創薬、介護、予防といった領域の課題を解決する企業や技術の総称。
メタバース	超越（Meta）と宇宙（Universe）を合わせた造語で、インターネット上で提供される仮想空間や、そこで社会活動や経済活動を行うサービスのこと。

附属資料

appendix

附属資料（市民ワークショップ実施結果）

■ 実施概要

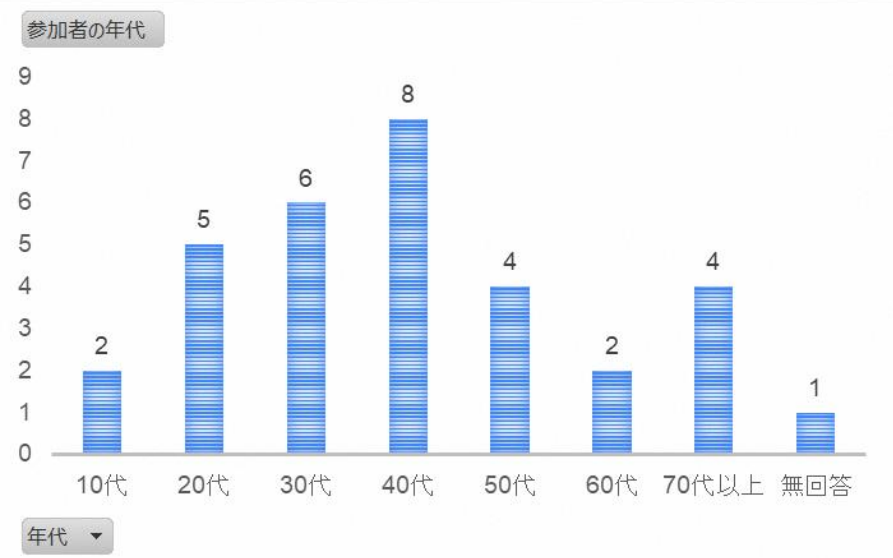
日　時	令和6年7月27日（土）13：00－16：00
場　所	市役所本庁舎１階　サードプレイス
テーマ	青森市のスマートシティを考えよう ～便利で快適な10年後の青森市～
参加者	大学生6名、移住者5名、働く世代5名、子育て世代6名、 町会関係者6名、公募6名　計34名（当日2名不参加）
方　法	ワールドカフェ方式

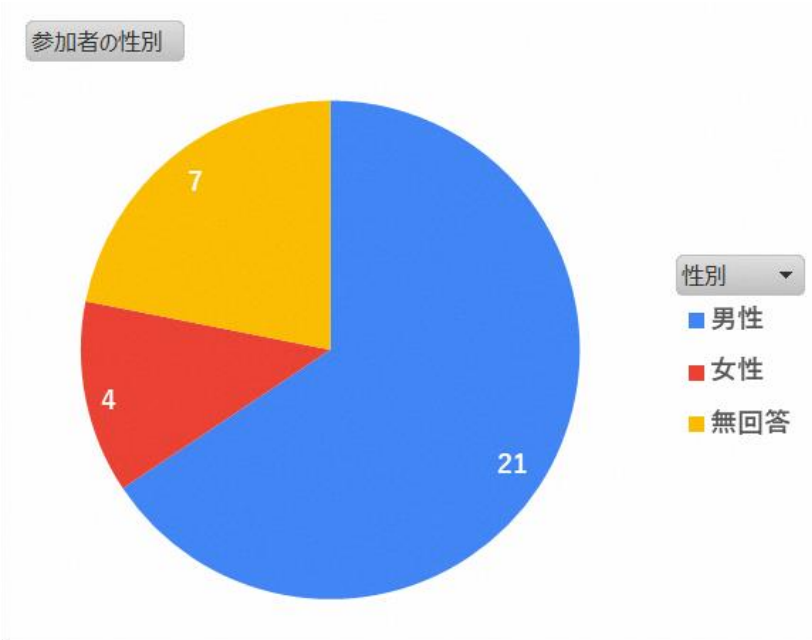
附属資料（市民ワークショップ実施結果）

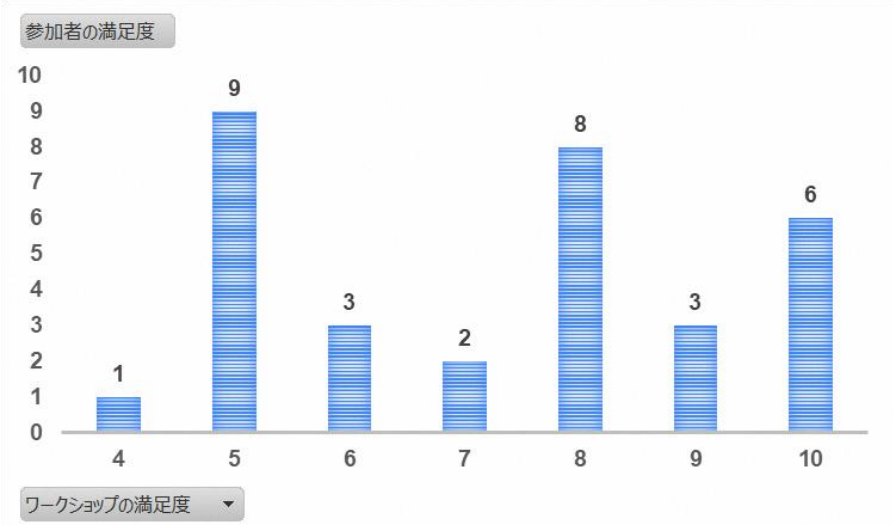
■ 参加者属性・満足度

- 参加者の性別は、男性が6割超を占めた。
- 参加者の年代は、 40代が最も多く、現役世代から高齢者まで幅広い年代に参加いただいた。
- ワークショップの満足度は、平均7.25となっており、比較的満足いただいたプログラムとなった。

（いずれも参加後のアンケート結果に基づく集計である）







附属資料（市民ワークショップ実施結果）

■ 参加後アンケート（あなたが考えるスマートシティ）

- スマートシティ（ICT/デジタル技術の活用によるまちづくり）を理解いただいたうえでアンケートを実施。
- 青森市民、一人ひとり、暮らし、親しめるなど市民生活に直結した取組が望まれている傾向。
- 地域課題、観光情報、コンパクトシティなどまちづくりに関する意見も一定程度見られた。

市民起点　# まちづくり

■ 参加後アンケート（スマートシティ実現の課題）

- リテラシー、情報格差、共通意識、取り残すなど、デジタルデバイドに関する意見が最も多い。
- 費用対効果、コストなど、費用的な意見も多くなった。
- 担い手、人材などに関する意見もあった。

デジタルデバイド対策　# ビジネスモデル
体制整備・人材育成

附属資料（市民ワークショップ実施結果）

■ 主な意見・アイデア

健康管理・行動変容

健康　地域経済

- 睡眠できてないなら〇〇行こう
- 跳人消費カロリーチェック
- 身体データ×青森ローカル情報と組み合わせ
- "健康チェックでポイ活（現金化）"
- 塩分摂取量を減らす
- スマホをかざすと栄養素が分かるアプリ
- 健康Pで買い物　など

健康管理・習慣化を促す
健康ポイントサービス

交通の利便性向上

中心市街地　地域交通

- 自動運転バス、自動運転タクシー
- 自動運転小型乗り合いタクシー
- 自動運転システム業者の誘致等
- "送迎環境を整える→自動運転、
- 駅から観光地へのアクセスをよくする（自動運転など）と観光客が増える
- 乗合タクシー・自動運転・実証実験・タクシー補助・ライドシェア　アオバス便利
- デマンド交通→安価で"

市民・観光客の交通手段として
自動運転・デマンド交通 等

人にやさしい社会

中心市街地　安全安心　地域交通

- 言語の案内（アプリ）
- "観光アプリでPR（多言語対応）"
- 言葉の壁をデジタルで解決
- "振込詐欺通信傍受で防ごう"
- ステップ無しの自動入口バスを作る
- 高齢者や障がい者、子供にも優しい交通システム

多言語対応やノンステップバス等
人にやさしい技術

コミュニケーションの活性化

子ども教育　文化スポーツ　健康

- 人と集まる機会を増やす
- 地区毎の運動会
- 子どもと老人が一緒に遊べる場
- 子どもと大人が協力して郷土料理教室？
- 英語を学ぶ！世界とつながる→ネットで交流
- 新しいコミュニティそこで勉強できる
- タブレット出張コミュニケーションサービス

デジタルによる
新しい交流・コミュニティ形成

情報発信の強化

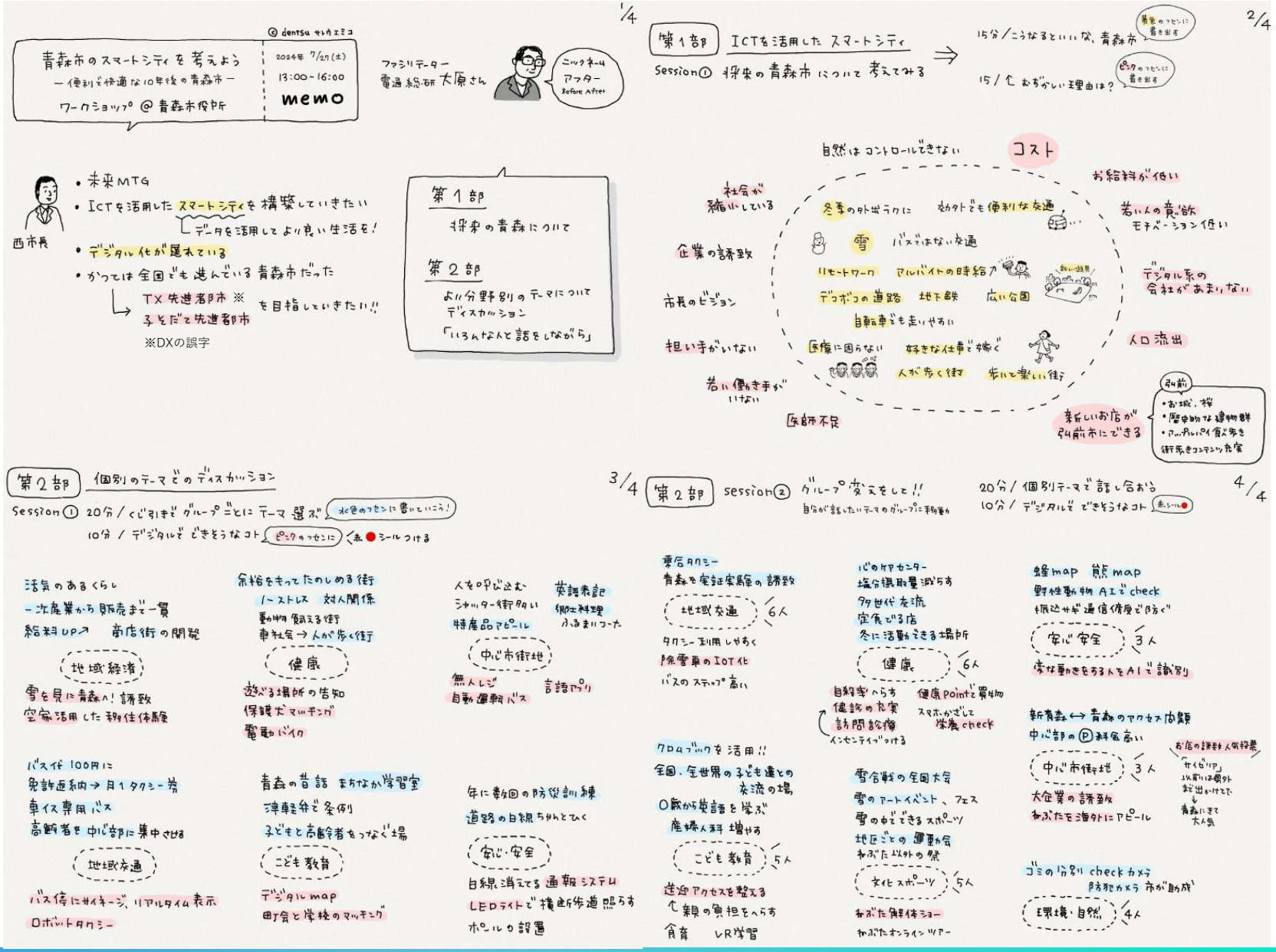
中心市街地　文化スポーツ　子ども教育　地域経済

- "お店を紹介（個人・行政）できるプラットフォーム
- ねぶたを海外に
- "竹浪さん講義オンライン"
- ねぶた解体ショー
- ねぶた師の話を聞く機会

- 津軽弁を勉強できる場
- ごみ捨てアプリ
- "デジタルマップ今やってる施設一覧"
- 郷土料理とこぎんざしとか市民センターの講座がオンラインで
- 遊べる場所の提案
- 地産物を市が総合プロモート

青森市に特化した情報プラットフォーム・市民オンライン講座

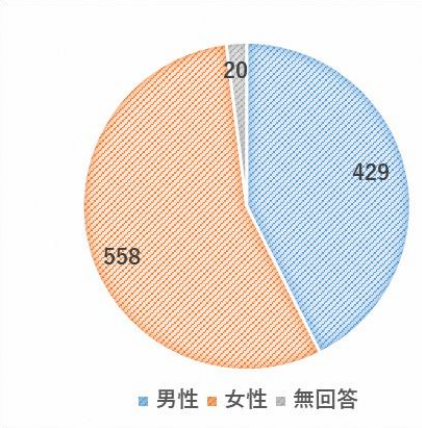
附属資料（市民ワークショップ実施結果）

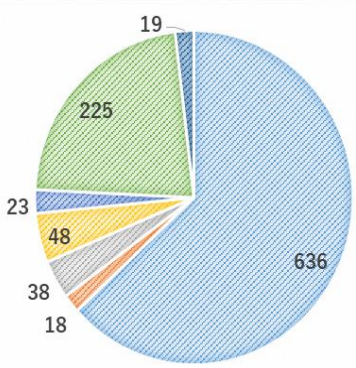


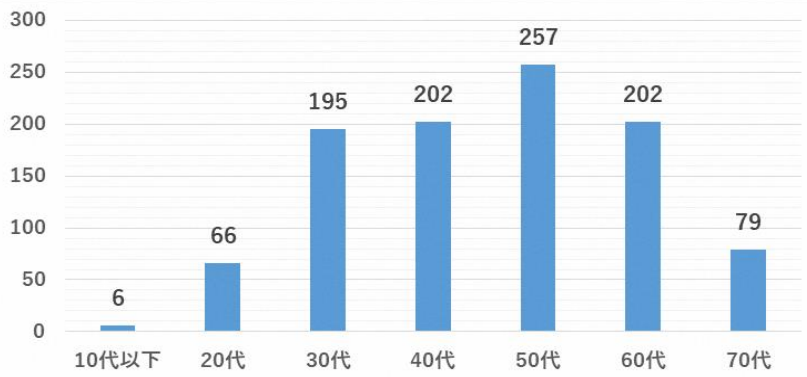
附属資料（地域幸福度（Well-Being）調査）

■ 実施概要

調査期間	令和6年7月10日から同8月12日まで
項　目	基本情報：　5問（性別、年齢、郵便番号等） 標準設問：51問（既定設問） 独自設問：　1問（DXに取り組んでほしい分野） 計57問＋自由記載
属　性 流入経路	• サンプル数 1,007件 • 全世代から満遍なく回答あり • 男女比率も概ね同程度 • 流入経路は青森市公式LINEが6割超を占める







■ 独自設問

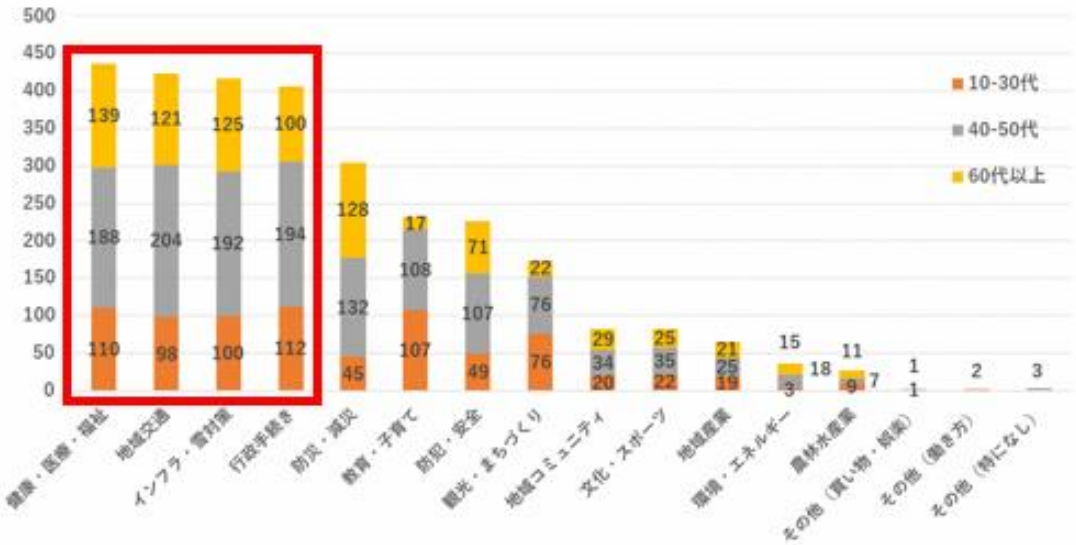
（デジタル技術を活用して特に便利になってほしい分野（最大３つ選択））

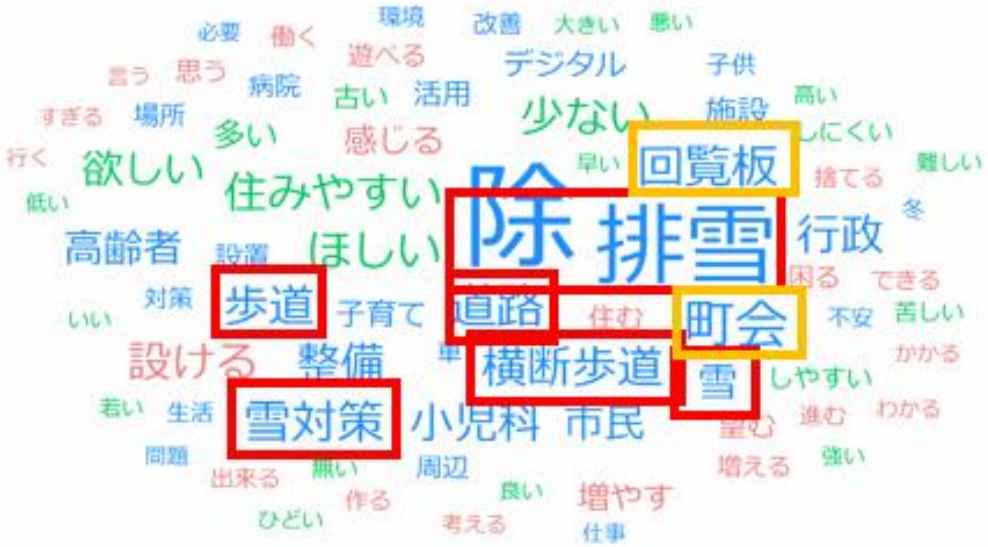
- 市民が関心の高かった分野は、「健康・医療・福祉」、「地域交通」、「インフラ・雪対策」、「行政手続き」となっている。

（自由記載）

- 身近な生活に関する要望が多い。
- 除排雪・雪対策、道路・歩道・横断歩道の「インフラ・雪対策」、町会・回覧板といった「地域コミュニティ」に関するものが多い。

健康寿命
地域交通
インフラ・雪対策
行政手続き
地域コミュニティ

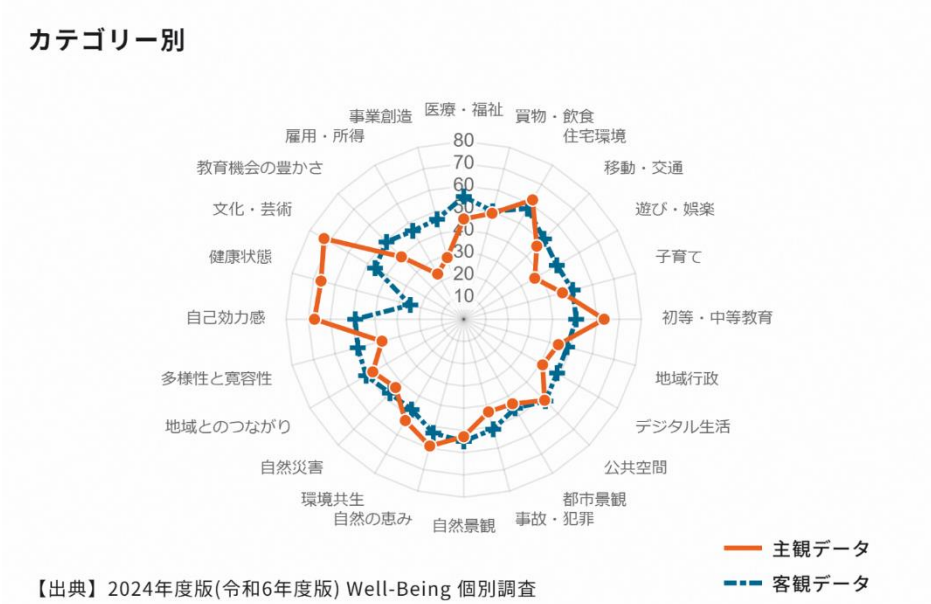
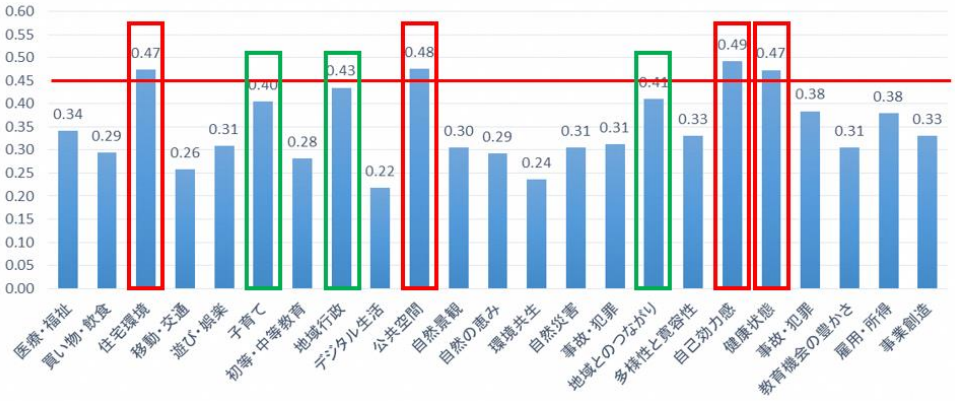




附属資料（地域幸福度（Well-Being）調査）

サマリー

区分	ベスト３	ワースト３
主観	**文化・芸術** 自己効力感 **健康状態**	**雇用・所得** 事業創造 遊び・娯楽
客観	住宅環境 医療・福祉 自然景観	**健康状態** **雇用・所得** **文化・芸術**

- 客観データでは、健康状態、文化・芸術が特に低いが、主観データでは特に高い項目となっており、大きく乖離がある状態である。
- 文化・芸術については、主観データにおいて、ねぶた祭りが推察できるが、健康状態は意識の問題と推察される。
- 雇用・所得については、主観・客観ともに特に低くなっており、青森市の最大の弱みとなっている。
- 幸福度と各カテゴリーの相関係数は右のとおりとなっている。
- 幸福相関度が高い分野は、「住宅環境」、「公共空間（まちなかなど）」、「健康」、「子育て」である。
- 幸福度を高める要素として、「自己効力感の向上」、「地域とのつながり」、「地域行政」による取組が考えられる。

カテゴリー別グラフ・相関係数